

若葉のころ

新規就農者の横顔

就農2年目の三重県伊勢市の奥田萌さん(24)は、技術の習得や初期費用の低減などで綿密な計画を事前に練り、イチゴで新規独立就農を果たした。栽培技術はJA伊勢の子会社などでも学んだ。3連棟ハウスを借り、液肥混入機や炭酸ガス発生機などは中古で買った。「今日やるべきことは今日やる」をモットーに高品質なイチゴの生産に意欲を燃す。

奥田さんが農業に関心を持ったのは、子どもの時の農業体験という。「思えば土いじり程度だったけれど、とても楽しかった」と振り返る。

地元の農業系高校を卒業後、県立農業大学校に進んだ。野菜を専攻に選び、次第にイチゴに興味を持つようになった。祖父が「萌が一から作ったイチゴを食べたい」と

決め手は祖父の一言



イチゴの生育を確認する奥田さん

三重県伊勢市・イチゴ奥田萌さん(24)

◆経営概況

伊勢市のハウス8畝でイチゴ「かおり野」を生産する。JA伊勢を通じて市場出荷をする。近隣の飲食店にも出荷している。

「命あるものを扱っていることを改めて実感した」と振り返る。

天敵のカブリダニを活用して農薬の使用を抑える。適期収穫を逃さないようにして、現在は一日平均200パック(1パック250g)を出荷する。

将来的には規模拡大も視野に入れる。奥田さんは「品質の良いイチゴを出せるよう、日々研さんに励みたい」と意気込みを示す。

(中村元則)

話していたことが、決め手となった。

卒業後はJA伊勢の関連会社、あぐりん伊勢で2年間の技術研さんを重ねた。独立就農に向けて具体的な計画も描

意欲を持って農業の世界に飛び込み、「雇用就農」や「独立就農」「親元就農」を果たした人物を紹介します。